

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/2階3階)

事業所番号	2775004902		
法人名	社会福祉法人 美正福祉会		
事業所名	グループホーム サニーハウス		
所在地	東大阪市御厨南2-6-11		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年1月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

セルフケアを目標にお一人お一人に合った支援を目指し家族様と連携をとりながら人生の終末期を穏やかに過ごして頂ける様に常に利用者様に寄り添えるよう支援して行きたいと思っております。看取りを希望される方がほとんどですので、本人様の支援は勿論家族様に対する支援も出来る限り援助していきたく思います。生活の中で利用者様は、勿論職員も笑顔が多く見れる環境に努めております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地元の八戸の里病院を母体としグループで特養1ヶ所と老健2ヶ所を運営している。事業所は先代の病院理事長が、高齢社会にあって増加する認知症予防を通して地域社会に貢献したいとの熱い想いで設立され、今年17年目を迎えた。2ユニットながら定員を12名と低く抑えることで、利用者に手厚くきめ細かいケアができることを目指している。事業所は、最寄り駅から徒歩約5分の落ち着いた街中にある3階建て鉄筋コンクリート造の2・3階にあり、1階にデイサービスを併設している。施設長は、先代理事長と共に事業所を立ち上げ、自ら看護師を兼ね管理者や多くの経験豊富なスタッフ、男性5名を含む総勢17名のやさしい職員等がみんなで力を合わせ、家族や地域の人々と協働しながら、利用者や家族にとって安心で信頼される、いわば終の棲家となる事を目指している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔 寄り添う 信頼」を目標に利用者様は、勿論家族様にも信頼してもらい職員も笑顔で働ける環境づくりを目指している。	事業所理念を職員の総意で定め、各フロアの事務所に額入りで掲示し、職員等への周知と浸透を図っている。理念は、職員の総意で定めたものであり、「笑顔 寄り添う 信頼」とシンプルながら介護の本質を表しており、今や職員にとって介護の拠り所になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方や地域包括センターの方と定期的に交流している。又運営推進会議にも参加して頂いている。	事業所と自治会など近隣の方々とのつきあいを今後とも深めて行く事が期待されるが、現在でも自治会の女性部長でもある民生委員から問い合わせがあったり、運営推進会議でも有益な情報提供等の連携はある。コロナ禍で従来のボランティアは中断しているが、コロナ禍が落ち着いている時期には、利用者が散歩や外食を楽しむなど地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談があった時は、相談にのり支援を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様を始め参加者の方の意見を伺いサービスの向上に活かせるようしている。	コロナ禍のため市と相談し従来の一堂に会しての会議は中止し、資料のみ配付した。R3年は、コロナ禍が一旦落ち着いた10・12月の2回実施し、議事録を作成した。会議には、民生委員、地域包括支援センター職員2名、利用者・家族代表、老健施設長や事業所から施設長・管理者が参加し、事業所からの報告に参加者の評価、質問や情報提供等が行われた。	議事録には、会議の様子が詳細に記録されている。さらに事業所の介護の実態を家族等に正しく知ってもらい、家族と協力し利用者の介護にあたる意味からも、議事録を家族にも公表(郵送)する事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事があれば市役所担当者に相談し、情報を得たりしている。	市の高齢者施設課とは、必要に応じ「ほうれんそう」(報告・連絡・相談)を行っているほか、時には実施指導を受ける事もある。利用者には生活保護受給者も含まれる事から、福祉事務所の往来もある。また、市の介護保険事業者連絡協議会にも参加し、有益な情報等の入手に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を優先する為やむおえず身体拘束を行っているが毎月身体拘束会議を開催し検討を行っている。家族様には、都度報告同意書を書いて頂いている。	事業所では「身体拘束適正化に関わる指針」を作成し、各フロアに掲示し家族等を含む関係者に周知している。現在、利用者の安全確保のための身体拘束事例(ベッド柵)1件が継続しており、家族の同意を取付けたうえ、毎月身体拘束適正化委員会を開き、解消に向けた検討を重ねている。身体拘束に関わる職員研修も定期的実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	市の高齢者虐待の研修に出来るだけ参加するようにしている。施設内研修でも開催するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を過去も現在も利用されている方がいるので必要に応じて話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時明確に説明を行い疑問点が無いか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族様にお手紙を送ったり、面会時に家族様と利用者様についてお話しし、意見を頂いたりしている。	利用者の意見・要望は、日常のケアの中で寄り添う職員が傾聴に努めている。利用者家族の意見・要望は、面会時や電話での報告時に聞くことで、介護や事業所の運営に活かしている。毎月送付している便りに添えた担当職員の短いメッセージが家族に好評で、家族から意見・要望を引き出す良いきっかけとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月行い現場の意見を聞きケアに反映している。職員に対しては、意見が言いやすい環境づくりを目指している。	施設長は毎日事業所に来所し、管理者は計画作成担当を兼任しながら、毎日職員とコミュニケーションを図っている。職員間および施設長—管理者—主任等相互間の意思疎通や互いを尊重するなど職場環境の良さは、職員のヒアリングにおいても確認出来た。家族のアンケートからも職員の優しさに定評ある事業所であることが確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力、努力を公平に評価し長所を伸ばしやる気を育てる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修、施設内研修等を通して職員のスキルアップを計っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流会、市の研修会にリモートで参加する機会を出来るだけ作る様にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族様やケアマネージャーから情報提供を受け要望に応じれる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族様の不安にならないよう初期の間は密に連絡を取り徐々に信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携を取りながらニーズを見極めながら支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族と暮らし支えるような気持ちを目指し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を家族様と、共に支えて行くよう家族様にも積極的に協力して頂ける様をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様が同行し、自由に外出してもらっている。友人、知人の面会も来て頂きやすい環境に努めている。	新型コロナ感染がひどい時には、利用者の買い物・散歩、ユニット間の往来や家族の面会等が中断したが、昨年10月以降はコロナ禍の落ち着きと共に外出や面会も徐々に緩和した。正月には帰宅願望のある3人が実家で外泊し家族等とのふれ合いを楽しむことを支援したほか、利用者の1人が毎年開催のクラス会への参加に施設長自ら同行し喜ばれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな利用者様同士でコミュニケーションをとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族様からの相談を受けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを出来るだけ多くとり本人さんの思いや希望をくみ取れるよう努力している。	入居申込時に施設長や管理者が自宅に出かけたりし、本人・家族から思いや意向、生活歴等の把握に努めている。入居後は職員がより深く利用者に寄り添う中で利用者の思いや意向を聞き漏らさないよう努め、職員間で共有している。表出が困難な利用者には、呼びかけを何度も繰り返し、首を縦に振るか横に振るかなどの仕草を観察して判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様より情報収集し在宅での生活に少しでも近くなるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースで過ごして頂ける様メンタル面や体調を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い情報を収集し介護計画を作成している。	介護計画作成担当者が中心となり、担当職員による日常のケア記録、本人・家族の意向や医療関係者(主治医や看護師)等の意見やアイデアを総合的に反映させ介護計画書を作成のうえ、家族の同意を得ている。職員は、介護計画書に沿ったケアに努め、記録を行い3ヶ月毎に利用者各自のモニタリングを実施し必要に応じ計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々情報を共有しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて柔軟にサービスが出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を出来るだけ把握できるよう地域包括の方とも交流しより豊かな暮らしを楽しめるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診があり、協力病院受診時は出来るだけ家族様にも同行してもらうようにしている。	入居時に利用者・家族の了承のもと、全員が協力医の訪問診療(内科 月2、歯科 週1)を受けている。神経科に由来からのかかりつけ医を受診している利用者がある。その際、家族の同行が基本であるが無理な場合は職員が同行している。受診内容はカルテに記載し、情報共有している。眼科、耳鼻科等は必要に応じて受診し、家族又は職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師には、相談できる環境の為必要時は相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は病院と連絡を取り合い早期に退院で生きる様情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について話しているが、確認の為再度話し合い看取りについて話合っている。	入居時に看取りに関する指針を説明し、事業所での生活を送りながら、利用者・家族の意向を聞き同意書を交わしている。重度化の際には、医師からの説明により、看護師である施設長、職員、家族で話し合い、再度意向を確認している。昨年2月に看取りを行い、医師、看護師、職員との連携良く、家族の意向に沿った支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、施設内研修などで話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を行い、その際災害時の避難場所まで利用者様と行ったりしている。	火災、水害、地震対応の防災マニュアルを作成し、年2回消防避難訓練を行っている。直近では昨年10月デイサービスと合同で、2階キッチンからの出火を想定し、利用者・職員合計33名の参加により、通報・避難誘導・消火訓練を行ったが、地域の協力体制は確約に至っていない。備蓄品は水、食料品等を各フロアのキッチンに3日分用意している。	訓練の様子を写真撮影し記録に残しているので、運営推進会議開催時に議題として取り上げ、訓練参加を依頼し(夜間想定での実地訓練)、役割分担等を話し合い、地域の協力体制構築を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライバシーを損なわない声掛けを心掛けている。適切でない声掛けをしている職員がいたら互いに注意出来る環境に努めている。	日常ケアの中で言葉掛けには特に注意している。入居歴の長い利用者には馴れ馴れしい言葉使いにならないよう職員間でもお互いに注意し合うようにしている。居室の出入りやトイレ誘導などプライバシーにも気配りしている。不適切対応には管理者から個別に注意している。個人情報の管理は適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に常に寄り添える時間をつくるよう心掛けている。その中で利用者様の希望をくみ取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し利用者様の希望に添う様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来ない方は、職員がその人らしい身だしなみが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事を作ったり、外食の日を設けたりしている。職員と一緒に後片づけをして頂いてる時もある。	給食会社による献立と調理済み食材を温めて提供している。食事レクリエーションとして行事担当が毎月楽しい企画を用意している。誕生会、敬老会、クリスマス会などチラシ寿司に手作りケーキ、メッセージカードを添えて歌を歌い、楽しい食事時間となっている。感染症対策を万全にした外食にも出かけ、「また行きたい」との声が上がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態に合わせて提供している。水分摂取量は目標量が確保できるよう声掛けし飲んで頂ける様介助、声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士より助言を受け口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ寝たきりの方もトイレで排泄が出来る様日中は、二人介助にてトイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、こまめな声掛けにより、できる限りトイレでの排泄を支援している。夜間は2・3時間おきに見回りと声掛けを行い、臨機応変に対応し、安眠を妨げないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらうようにしたり、食べ物を工夫したりなるべく自然排便になるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人ずつゆっくり入って頂ける様時間を設けている。	入浴日は週2・3回の午前と決めているが、ゆったりとした気分で入浴できるよう、歌を歌ったり入浴剤を使用するなど工夫している。冬至にはゆずを浮かべ楽しみながらのひと時となった。介護度が高くなり、2人介助の利用者が増えていることもあり、車いすのまま湯舟につかれる入浴機器の導入を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースでいつでも居室で休息できるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を行っており薬剤師に相談したり連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状の中で、出来る限り利用者様が楽しんで頂ける時間を作るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いころは、交代で散歩に行ったりしている。毎年地域の盆踊りや神社にお参りに行ったりしている。	コロナ禍もあり少人数の個別対応で出かけている。近くの川沿いに遊歩道があり、暖かい日には散歩に出かけ、春には桜が咲き花見も出来る。今月はデイサービスの車で近くの神社へ初詣に出かけ、帰りには周辺ドライブを楽しんだ。年末・年初には実家に帰った利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、管理規定に沿って管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方に電話をしてもらったり、テレビ電話をしてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じれるように壁面飾りをしたり、ゆっくりくつろいでもらえるように廊下やリビングにソファを置いている。	居間兼食堂は明るく家庭的な雰囲気に包まれている。壁面には誕生会やクリスマス会のイベント写真や獅子舞・お多福などの正月飾りがある。感染症対策も行き届き、殺菌効果のある空気清浄機を設置し、定期的な換気と消毒を心掛け、安心・安全で心和む共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごされたり、気の合った利用者同士で居室で過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染の家具や物を持ってきてもらったり家族の写真を持って来られている。	居室入り口に折り紙細工と利用者の写真入りの表札があり、洗面台、クローゼット、ベッド、エアコン、防災カーテン、温度計が備え付けである。自宅で使用していた整理ダンスや収納家具を持ち込み、孫の結婚式・ひ孫の写真を飾り、居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が解りやすいように居室に大きく名前を書いたり、転倒されないよう家具の配置を考え歩く動線を工夫している。		